

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:令和2年度)

施設 の 名 称	宮城県さくらハイツ
指 定 管 理 者 の 名 称	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会
施 設 所 管 部 課 (室)	保健福祉部子ども・家庭支援課

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期 間	管理形態	指定管理者(管理受託者)の名称	摘 要
平成15年4月 ~ 平成18年3月	管理委託	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成18年4月 ~ 平成23年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成23年4月 ~ 平成28年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	
平成28年4月 ~ 令和3年3月	指定管理者	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会	

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名 称	社会福祉法人 宮城県福祉事業協会
	所在地	仙台市太白区茂庭台二丁目15-20
指 定 期 間	平成28年4月1日 ~ 令和3年3月31日 (5 年)	
募 集 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 公募 <input type="checkbox"/> 非公募	

3. 施設の概要【施設所管課記入】

施 設 の 名 称	宮城県さくらハイツ	
所 在 地	宮城県	
設 置 年 月	昭和23年12月	
根 拠 条 例 等	母子生活支援施設条例 母子生活支援施設条例施行規則	
設 置 目 的	配偶者のない女子又はこれに準ずる事情にある女子及びその者の監護すべき児童を入所させて保護するとともに、これらの者を支援することによりその自立を促進し、あわせて退所した者について相談その他の援助を行うもの。	
施 設 の 内 容	敷 地 面 積	7,006.13㎡(その他併用施設の敷地を含む)
	構 造	鉄筋コンクリート造4階建て
	内 容	事務室、相談室、多目的室、保育室、母子生活居室等
開 館 (所) 日	通年	
開 館 (所) 時 間	24時間	
指 定 管 理 者 が 行 う 業 務 の 範 囲	<ul style="list-style-type: none"> ・母子生活支援施設条例第3条各号に掲げる業務 ・支援施設の維持管理に関する業務 ・その他、知事が別に定める業務 	
利 用 料 金 制	採 用 の 有 無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	利 用 料 金 の 名 称	

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和2年度) (A)	前 年 度 (令和元年度) (B)	評価対象年度 (令和2年度) (C)		
開館(所)日数	365 日	366 日	365 日	100.0%	99.7%
延べ利用者数	240 世帯	233 世帯	223 世帯	92.9%	95.7%

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和2年度) (A)	前 年 度 (令和元年度) (B)	評価対象年度 (令和2年度) (C)		
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
	人	人	人	#DIV/0!	#DIV/0!
合 計	0 人	0 人	0 人	#DIV/0!	#DIV/0!

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円, %)

項 目	事業計画	実 績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和2年度) (A)	前 年 度 (令和元年度) (B)	評価対象年度 (令和2年度) (C)		
県指定管理料	63,826	62,620	63,826	100.0%	101.9%
利用料金収入				#DIV/0!	#DIV/0!
その他				#DIV/0!	#DIV/0!
収入計 (a)	63,826	62,620	63,826	100.0%	101.9%

(2) 支出

人件費	51,369	47,375	50,540	98.4%	106.7%
施設管理費	6,627	7,041	6,346	95.8%	90.1%
事業運営費	5,830	6,426	6,105	104.7%	95.0%
その他				#DIV/0!	#DIV/0!
支出計 (b)	63,826	60,842	62,991	98.7%	103.5%

(3) 収支

収 支 (c)=(a)-(b)	0	1,778	835	#DIV/0!	47.0%
前期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!
次期繰越収支差額				#DIV/0!	#DIV/0!

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲すること。

6. 評価対象年度(令和2年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

項目	事業実績 【指定管理者記入】		指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		評価	県の評価 【施設所管課記入】		評価
	正規	非正規	評価	評価		評価	評価	
①管理運営体制	<ul style="list-style-type: none"> 職員体制:常勤12名非常勤3名計15名 児童福祉施設の設備及び運営に関する基準を満たし有資格者、社会福祉経験者を配置 職員研修は県内外、法人内、施設内の研修に積極的に参加し専門的知識の習得、資質向上に努めた(母子生活支援施設・DV関係、児童虐待防止学会、心理療法保育技能研修) 		<ul style="list-style-type: none"> 最低基準の職員配置基準を満たし社会福祉士、精神福祉士、公認心理士、保育士、臨床発達心理士などの資格を有した職員を採用し充実した支援に努めた 母子の複雑多岐にわたる入所課題に対して専門知識や対応が求められる現状の中、コロナ感染防止のため研修が中止となったため、カンファレンスや検討会の施設内研修を実施し、支援の資質向上、管理運営に努めた 		S	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理料の範囲内において、入所者への適切な支援に必要な人員体制を確保し、処遇にあたっている。 職員研修については、複雑多岐な支援課題に対応できるよう、各種研修会へ積極的に参加し、職員の資質向上に努めている。 また、自主研修の奨励など、日常的に施設長から職員への指導が適切に行われている。 	S	
人員体制	正規	8人	非正規	7人				
②施設・設備の維持管理業務の実施	<ul style="list-style-type: none"> 職員、利用者と共に掃除し衛生に配慮し環境整備に努めた 退所時のリフォーム、建物、備品関係の修繕、調整を14件実施 遊具の点検は法令に従い毎月実施 排水管の水漏れ防止として全管の高圧洗浄、共有スペースのワックスがけを年1回実施 真夏の健康維持のためにエアコンを設置 		<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染防止について利用者に情報提供し注意喚起と職員全員が換気、消毒を徹底し施設全体で衛生管理に取り組んだ 安全で安心した生活のために消防設備の点検など、法令に基づいて定期点検を実施した 経年劣化に伴う修繕箇所に対しては早急に対応し快適な住環境に努めた 		S	<ul style="list-style-type: none"> 職員、利用者共に、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策をはじめ、日常的な清掃を行い、施設内のより良い環境づくりに努めている。 施設の維持管理に関して、法令に基づき、点検等を十分に実施し、入所者の安全が確保されるよう、十分な環境整備に努める必要がある。 	A	
③運営業務(ソフト事業等)の実施	<ul style="list-style-type: none"> 施設運営は事業計画に従い実施 母支援(支援9項目5245件前年108%) 児童支援(支援7項目2972件 // 120%) 保育支援(保育室利用延1133 // 192%) 保育園利用時支援延26件 // 16% 心理支援(支援5項目589件 // 160%) 個別対応支援(母338件児690件116%) 公的関係機関連携(216件 // 127%) 退所者支援(母356件 児214 // 260%) 		<ul style="list-style-type: none"> 母子の自立や養育に向け日頃の関係性を大事にし家族ミーティングや家事、養育介入、個別対応などの家庭支援に努めた 障害や発達を抱える利用者に対して関係機関と連携し資源の利用などアフター支援を視野に入れた切れ目のない連続した支援に努めた 自己回復として心理支援となる「ほっこり室」が安心した空間としての役割が大き 		S	<ul style="list-style-type: none"> DV被害世帯に対し、自立支援のみならず、母子の精神的ケアなどきめ細やかな対応を行っている。 様々な問題を抱えた利用者等、困難なケースに対しても、関係機関との連携により、適切な支援の実施に努めている。 退所者への支援についても、積極的に取り組み、継続した自立支援に努めている。 	S	
④自主事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 施設の設定環境から施設単独の地域支援事業の実施は難しいが地域交流を意識し、資源ごみ回収の協力や町内会総会の会場として施設のスペースを解放 退所者支援として施設内で開催していた習字教室を地域の施設で開催。また若年母子に対してはあかカウンセリングを開催。地域貢献として子育て支援やイベント、大学への講師派遣、要対協に参加 		<ul style="list-style-type: none"> 施設の機能上ひとり親家庭への直接支援は難しいが地域からの要請には母子生活支援施設の機能を活かし必要な情報を提供し地域貢献に努めた 退所後も安心して参加できる書道やカウンセリングなどの体制を整え自己回復の支援も含めたアフター支援に努めた 地域の社会資源として情報を発信し関係機関とのネットワークが広がった 		A	<ul style="list-style-type: none"> 秘匿性が求められる施設の性質上、地域と密着した支援が困難である中、可能な範囲で地域との交流・支援に努めている。 退所者に対し、ケースに応じて柔軟かつきめ細やかなアフターケアを実施している。 	A	
⑤利用者サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> 365日24時間体制で生活支援を実施 年間在籍223世帯 同伴児426人 入所:8世帯23人(前年度4世帯11人) 退所:7世帯22人(前年度5世帯13人) 利用者の状況については①③に記載あり 職員会議 合同処遇会議 ケース検討会 支援者会議を開催。会議ではスーパーバイザーの助言をもとに支援の向上に努めた 第3者評価を受審し施設全体の資質向上に努めた 		<ul style="list-style-type: none"> 利用者の安心安全な生活として24時間体制で支援に努め退所後も継続した切れ目のない支援に努めた 関係機関からの相談により入所を行い、利用者と一緒に自立支援計画書を作成し自立にむけ関係機関と連携し必要に応じて支援者会議やケース会議を開催した。 支援に専門性が求められる研修や内部研修により資質向上に努めた 第3者評価受審により支援の機能の強化サービス向上に努めた 		S	<ul style="list-style-type: none"> 入所者個々の実情に応じたきめ細やかな支援が行われている。 入所者と常に話し合いを持ち、入所者の意思を尊重しながら、自立に向けた支援を行っている。 	S	
⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映	<ul style="list-style-type: none"> 日常の苦情要望にはその都度対応 利用者アンケートを年2回実施 母21人(質問12項目:はい151, いいえ9, どちらでも18) 子19人(質問4項目:はい19, いいえ2, どちらでも5) アンケートの内容や要求に対しては職員会議で協議・検討している 		<ul style="list-style-type: none"> 日常の関係性を大事にし必要に応じ家庭介入や家事介入など家庭支援に努め要求や要望、意見に対して早急に対応した アンケート結果を支援に活かし資質向上に努めた 今年度は苦情解決制度利用はなかった 		S	<ul style="list-style-type: none"> 入所者からの要望に対し、常に誠実な姿勢で迅速な対応に努めている。 	S	
⑦安全対策	<ul style="list-style-type: none"> 火の元や体調、検温を毎朝見回りで確認 非常災害対策計画及び沙危機管理マニュアルを整備し安全管理に努めた 関係機関との防災会議を開催、年12回の防災訓練はコロナ感染予防の観点から机上訓練とした 状況を想定し通報訓練や不審者や追跡者や消防通報訓練は警察と連携し実施 遊具点検を3年に1回実施 毎月安全点検を職員が実施 		<ul style="list-style-type: none"> 年2回の消防設備点検や月1回のエレベーター点検を実施し利用者の安全管理に努めた コロナ感染予防対策として3施設で対応を協議し緊急時対応に備えた。利用者には情報を提供し施設全体で消毒、換気に全力で対応し万全を期した 不審者対応や追跡などの緊急対応について警察と連携し安心して安全な施設運営に努めた 		S	<ul style="list-style-type: none"> 危機対応マニュアルの整備や防災訓練の実施等、安全対策が適切に実施された。 遊具の点検等、施設の維持管理については、入所者が安全に利用できるよう、法に基づく設置基準等を遵守し、常に安全に配慮した運営に努める必要がある。 訓練方法を工夫し、感染防止に配慮した安全対策に努めている。 	A	
⑧県民の平等利用	<ul style="list-style-type: none"> 県内全域の福祉事務所から受入れ平等性を確保、緊急に対しては迅速かつ積極的に受け入れた 福祉事務所や関係機関からの相談や問い合わせに対応し必要な情報を提供した。 アウトリーチとして支援を必要とする方に福祉事務所直接画像で施設の情報を提供 		<ul style="list-style-type: none"> 県内外の福祉事務所からの問い合わせに対して受入れし社会資源の活用について関係機関と連携し迅速に対応した 施設の利用に迷う相談者や「施設のことを知らなかった」という地域の声に情報を発信しアウトリーチに積極的に取り組んだ 		S	<ul style="list-style-type: none"> 円滑に入所者の受入れを行うよう努めており、入所に至らなくとも福祉事務所からの相談を受けるなど、支援の協力を工夫している。 施設の利用促進に向けて、情報発信に積極的に取り組んでいる。 	S	

項目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】		県の評価 【施設所管課記入】	
			評価		評価
⑨個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護管理規程や倫理綱領、基本理念の遂行に努め保護に努めている 情報漏洩が起こらないよう関係機関に状況を説明し協力を要請 利用者に自他の安全を守る意味や個人情報の重要性について説明している 	<ul style="list-style-type: none"> 職員一同が情報管理の意識を持ち、守秘義務や情報漏洩の防止に努め、個人情報や記憶媒体の取扱いについて管理を徹底した 利用者同士の情報交換が互いの生活を脅かされることを伝え「生活を守ること」について理解を求めた 	S	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護管理規定等が職員に十分に周知され、職員の個人情報保護に関する意識が非常に高い。 外部に対する情報漏洩防止対策が徹底されている。 利用者に対する個人情報取扱いの説明など、情報管理に細心の注意を払っている。 	S
⑩利用実績	<ul style="list-style-type: none"> 上記4(1)に記載 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉事務所からの入所依頼に対して身内からの支援が望めず緊急性が高い世帯を受け入れ公平で平等な受け入れを行った 入所実績は昨年同等であった。DVDで施設の支援を紹介し情報を発信し積極的な入所の受け入れに努めた ケース会議や支援者会議、職員会議で情報共有しスーパーバイズを受けながら積極的に自立について検討した 	S	<ul style="list-style-type: none"> DV被害者等、様々な入所依頼に適切に対応している。 退所実績は入所実績とほぼ同数となり、施設における自立支援の取組の成果とみられる。 入所希望者が抱える問題が複雑化し、支援の困難性が増しているが、引き続き対応力の向上に努め、支援の充実に取り組みたい。 	S
⑪収支実績	<ul style="list-style-type: none"> 上記5に記載 	<ul style="list-style-type: none"> 職員が職場環境に意識を向け環境整備や職員他職種と連携し超勤の軽減などの意識改革に取組み働きやすい環境を目標としている コロナ感染予防対策を講じ家族単位での行事を計画。昨年同様に家族で楽しみを通じ家族関係に変化が見られ費用対効果と考え、施設として充実した運営と評価し今後も継続していきたい 	A	<ul style="list-style-type: none"> 利用者への支援体制を確保しながら、管理経費等の削減に努めている。 	A
⑫その他の取組	<ul style="list-style-type: none"> 要対協、学校で委員や役員として地域の要保護家庭や要保護児童の支援に協力 大学からの依頼により母子生活支援施設について講義し地域の社会資源として啓もうに努め、保育実習生を受け入れ人材育成に努めた ひとり親家庭や地域からの相談に関係機関と協働し地域の資源として取り組んだ 利用者と共に環境美化に取り組んだ 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の支援を必要とする世帯に対して母子生活支援施設の情報を発信し、必要な人に必要な社会資源を関係機関と連携し提供するなど施設運営に取り組んだ 保育実習生を受け入れ大学からの講師依頼に積極的に取り組み人材育成に努め職員の資質向上となっている 	S	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流・支援の充実という観点からも、ひとり親家庭に対する支援への努力が認められる。 	S
総合評価		<ul style="list-style-type: none"> 知的障害を抱える母子や暴力被害の影響と思われる言動に対する介入など専門的知識や介入スキルが求められ、関係機関と連携し家庭支援に努め、退所に向けた切れ目のない支援に努めたと評価。 コロナ感染予防対策を講じ家族単位で行事を計画し家族の楽しみを保障し様々な関りが家族関係再構築の原動力となっていると考え今後も継続し家族支援に努めたい 	S	<ul style="list-style-type: none"> DV被害世帯や障害を抱える世帯等、様々な状況の世帯が入所している中、個々の実情に応じたきめ細やかな支援を最大限行う努力をしており、利用者へのメンタルヘルスケアの充実など、常にサービスの質の向上を考えた取組を行っている。 	S

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評価	評価の考え方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	<ul style="list-style-type: none"> 安定した家族関係の再構築として退所後を視野に入れた切れ目のない支援としてインケアからアフター支援としての支援体制の強化を図ることとし令和3年度からアフター支援員の配置が実現。利用者が安心して地域生活に移行できるように、行政機関などの関係機関とのネットワーク体制強化に取り組んでいきたい 民間の母子生活支援施設が認められている処遇改善費を民間同様措置費に基づき適正に実施できるように要望していきたい 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の処遇改善について、地域における切れ目のない支援の充実及び適切な運営が確保されるよう検討していく。